

重症心身障害児施設の病床にかかる 医療法施行規則第 30 条の 33 の適用について

1 今後の整備方針（案）

重症心身障害児施設の病床（以下「重心病床」という。）については、**病院（施設）開設・増床等の申請に係る病床数を算定するにあたって、医療法施行規則第 30 条の 33 の規定を適用することにより、病床過剰圏域においても、重心病床を設置できることとし、病床の設置にあたっては、該当圏域の圏域保健医療福祉推進会議及び医療審議会の意見を聞くこととする。**

< 医療法施行規則第 30 条の 33 >

基準病床数制度においては、二次医療圏（精神・結核・感染症については全県域）における既存病床数及び**病院開設や増床の許可申請に係る病床数**を算定するにあたって、社会福祉施設（重症心身障害児施設、肢体不自由児施設等）の病床等の病床数を**算定しないこととされている。**

2 重心病床の状況

(1) 県内の重症心身障害児(者)数

重症心身障害児(者)：重度の知的障害及び重度の肢体不自由が重複している方
2,512 人（うち在宅の人数 2,048 人）

平成 19 年 12 月 31 日時点（名古屋市は平成 19 年 6 月 1 日時点）

(2) 重心病床数

重心病床には下記の 2 種類があり、いずれも児童福祉法に規定されるものであり、また医療法に規定される病床でもある。

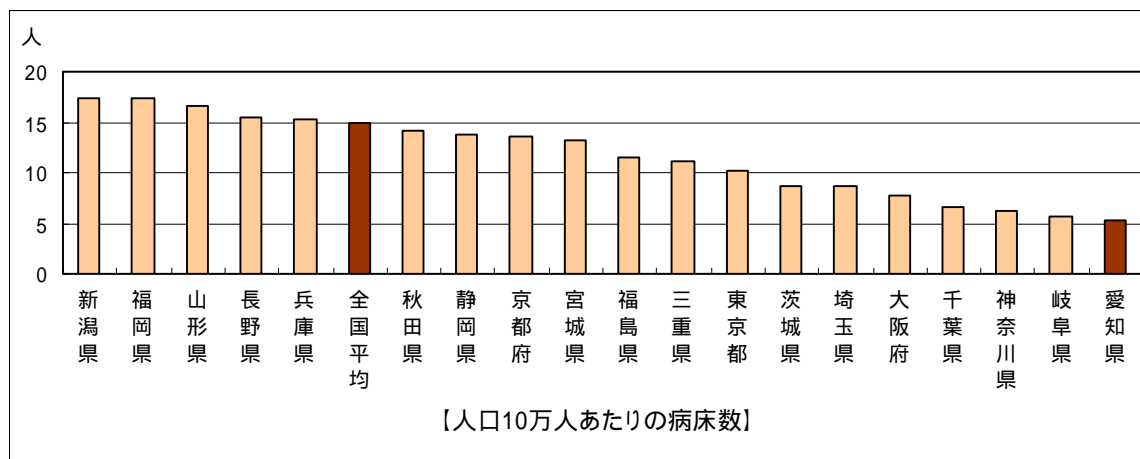
重症心身障害児施設

- ・愛知県青い鳥医療福祉センター（西区・一般病床 120 床）
- ・愛知県心身障害者コロニーこぼと学園（春日井市・精神病床 180 床）

重心病棟（国立高度専門医療センター若しくは国立病院機構の設置する医療機関であって厚生労働大臣が指定するもの）

- ・国立病院機構東名古屋病院（名東区・一般病床 42 床）
- ・国立病院機構豊橋医療センター（豊橋市・一般病床 40 床）

平成 20 年 4 月 1 日現在、県内に重心病床は 382 床あるが、人口 10 万人あたりの病床数は 5.2 人であり、都道府県全国平均の 15.0 人を大きく下回り、**全国最下位**となっている。



3 重症心身障害児施設の必要性

平成 18 年に障害者自立支援法が施行され、施設から地域生活への移行が進められているが、医療的ケアを必要とする重症心身障害児(者)の増加や障害の重度・重複化、介護者の高齢化等により、地域での生活が困難となる方がある。

愛知県心身障害者コロニーの調査によると、現在地域で生活をする重症心身障害児(者)のうち、施設への入所(将来的な入所を含む)を希望する方が 35.4% で最も多く、希望する施設としては、重症心身障害児施設が 46.7% で最も多くなっている。

地域生活が可能な重症心身障害児(者)にとっても、緊急時における医療的ケアが可能な短期入所が不可欠であり、重症心身障害児(者)に対応した入所施設が必要となる。

4 病床整備の手続き

重心病床の整備にあたっては、当該地域の**圏域保健医療福祉推進会議の意見及び医療審議会医療計画部会の意見を聞く**こととする。

従来¹の非過剰地域等の病床整備計画を審査する手続きに併せて行うこととする。